

高住宮ノ谷遺跡 たかすみみやのたにいせき & 高住牛輪谷遺跡 たかすみうしわだにいせき

これが、本当のわたし…



ついに本命登場!?! 造成された面が姿を現しました!

高住牛輪谷遺跡では、昨年度の調査でも確認された、古墳時代終わり頃（約 1,400 年前）の大規模な造成の跡と、掘立柱建物の柱穴などが顔を出し始めました。

これまでの調査成果から考えて、今後古墳時代初め頃（約 1,700 年前）までの数回にわたる造成の跡や竪穴建物跡などが確認される可能性が高く、慎重かつ丁寧に発掘作業を進めていきたいと思ひます。

また、毎日見つかる土器などの量もどんどん増えてきており、調査面積はそれほど広くないのに、一日でコンテナ 1 箱以上になることもあります!! 中には重要な遺物も…あるかもしれません。



第6面検出状況（南西から）

造成土の微妙な色の違いなどから、丸い穴や四角い部分が見つかりました。おそらく掘立柱建物や竪穴建物と思われるます。



土層断面

黄色と灰色の土がまだら模様混ざっているのが造成土です。別の場所から土を持ってきて埋め立てたと考えられます。



暑い暑い夏が終わり、朝夕の涼しさや稲穂の実り方に秋の気配を感じるようになりました。夏の疲れを癒して、本格的な秋を迎えたいところです。さて、秋には 10 月 10 日（土）に高住牛輪谷遺跡、11 月 7 日（土）に松原田中遺跡の現地説明会を開催する予定です。詳細は財団HPでお知らせしますので、是非お越しください。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

（公財）鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太 12 番地

TEL：0857-51-7553 FAX：0857-51-7550

メールアドレス：tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

HP：http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu new.htm



鳥取西道路の遺跡を掘る!

第 77 号 2015 年 9 月 18 日

発掘調査で一番多く出土するのが土器です。土器は縄文時代に作られはじめてから、時代ごとにさまざまな文様で飾られてきました。

今回は、弥生時代の土器につけられた、とある文様に注目しました。



ペタペタ…弥生人のスタンプのはなし。

弥生土器は縄文土器と比べると形がシンプルで、文様も少なく、地味な印象を受けるかもしれません。そんな弥生土器も、時代ごと、地域ごとに独特の文様で飾られています。そのひとつが、山陰の弥生時代後期にみられるスタンプ文という文様です。

スタンプ文は、木などを彫ってスタンプを作り、土器に押し当ててつける文様です。銅鐸によく見られる渦巻文などが注目されています。

大正9年に福井県で出土が報告されて以降、北陸、山陰を中心に各地で出土事例があり、山陰では因幡で多く見られます。北陸でも盛んに使われており、当時の山陰と北陸の交流をうかがうことができます。

文様の種類には、同心円文、渦文、鋸歯文のほか、鳥を表現したものなどがあります。スタンプ文以外の文様は土器を作る工具や貝殻などを使ってつけるのに対し、スタンプ文はつけたい文様をわざわざ彫っています。となると、もっといろいろな表現の文様があってもよさそうですが、これまでに出土したスタンプ文の大半が同心円文で、鳥のような文様は数例しかありません。

文様をつける土器の種類も、小型の台付壺や器台などに限られており、また、スタンプと複数の線を組み合わせる、といった一定のパターンで文様をつけていることが多いため、何らかのルールをもって文様をつけていると考えられます。

あなたが弥生人ならどんな文様をスタンプにしますか？



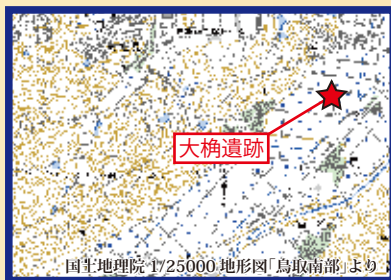
スタンプ文をもつ土器
(松原田中遺跡出土)



様々なスタンプ文

大楠遺跡

だいかくいせき



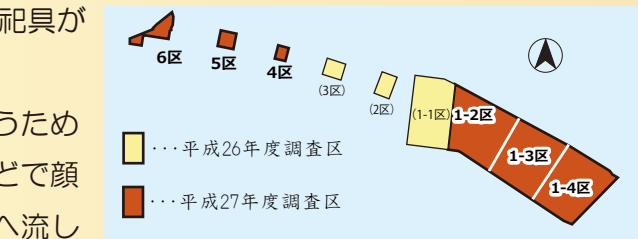
1-2区では、川の跡から多量の人形など、様々な木製祭祀具が出土しています。

人形とは人の形をした形代で、身についた穢れを移し払うために使われた祭祀具の一つです。古代では木で形作り、墨などで顔や衣服を描きます。そして人から人形へ穢れを移すと、川へ流します。今回の調査で発見された人形は、バリエーションが豊富です。体の向きには、正面のものと横向きのものがあります。1mを超える大きなものから手のひらサイズの小さなものがみられるほか、完全な状態で出土するものがある一方で、バラバラに割られた状態のものも見つかっています。写真の人形は、切込みで腕を表現してあります。このような特徴は、それぞれの人形の年代などを考える上で重要な要素となります。

古代の人々にとって、人形を使う祭祀は重要な行事であったようです。当時の祭祀の一端を垣間見ることができる大切な資料です。



1-2区の川の跡から出土した人形（腕あり）



水辺の祭祀
想像図

秘密兵器、投入!!



弥生時代前期の川の跡

1-3区から1-4区にかけて、弥生時代前期（約2,400年前）頃の川の跡が見つかりました。川の中やその周辺からは、土器や石器などが見つかり、特に1-3区北東部で遺物が集中しています。

この場所からは、土器のほか、安山岩製のヤジリや製作途中の石のカケラ、また緑色凝灰岩製の管玉

が見つかりました。この時期の管玉は、全国的にも、とてもめずらしいものです。管玉を身に付けた人がここで石器を作っていたのでしょうか？

そこで、秘密兵器「フルイ」を投入！1cm以下の小さな遺物も余すところなく見つけ出すことで、貴重な管玉をもれなく回収するとともに石器製作の様子を明らかにしていければと思います。



フルイにかけながら土を洗い流していきます

松原田中遺跡

まつばらたなかいせき



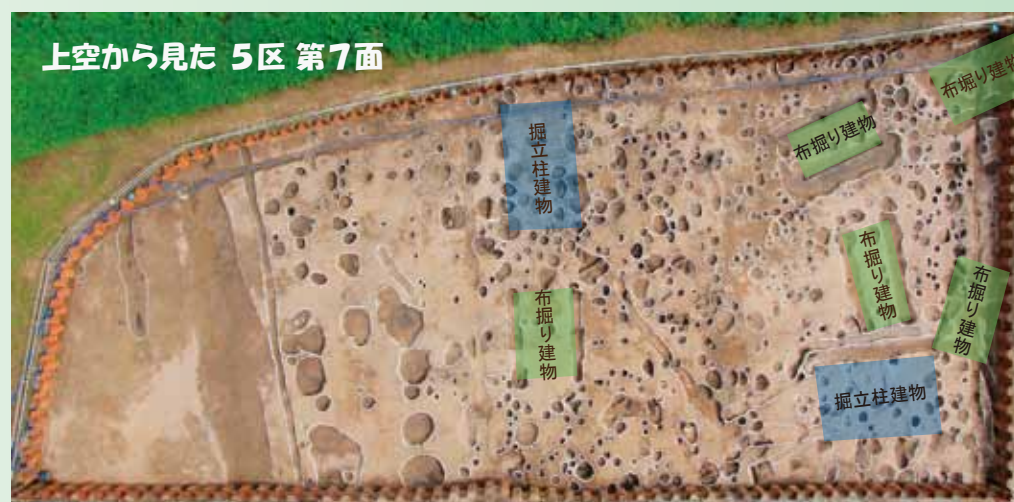
軟弱地盤に掘立柱建物を建てる工夫

地中梁の取上げ風景

5区の最終面である第7面・

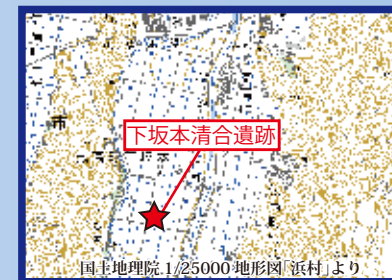
古墳時代前期頃（約1,700年前）の遺構は約650基もありました。なかでも、類例の少ない「布掘り掘方をもつ掘立柱建物」が注目されます。

発掘調査で見つかる建物は、地面を掘り下げて床面を作る竪穴建物や地面に直接柱を埋める掘立柱建物が主流です。掘立柱建物の柱掘方（柱穴）は、柱を1本ずつ立てた壺掘りが大多数です。ところが、当遺跡では通例（壺掘り）の掘立柱建物はもちろん、柱を2本以上立てるための溝状の掘方をもつ「布掘り」建物10棟以上（うち5区に5棟集中し、3棟には地中梁も伴う）や、底に礎板や枕木が敷かれた柱穴も多数見つかりました。掘立柱建物を軟弱地盤である低湿地に建てる際の不同沈下防止への工夫がうかがえるとともに、わざわざ地盤が軟弱な場所に建てられた理由も気になるところです。



下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



どしゃぶりの雨の中で

去る9月6日の日曜日に、地元の皆さんを対象にした調査状況の説明会を開催しました。今回はそのお話です。

お盆を過ぎたところから急に涼しくなり、これで発掘調査もはかどるかと思いきや、今度は早すぎる秋雨前線の活動に悩まされることになりました。9月4日（金）にラジコンヘリコプターによる空撮を予定していたのですが、その日にいたるまで連日の雨、雨、雨。それでも撮影当日にはようやく晴れて、いい写真が撮れました。翌日の土曜日にも晴天だったので、このまま日曜日の説明会まで続いてくれよと祈っていたのに・・・なんと、朝からどしゃぶりの大雨でした。

そんな悪天候にもかかわらず、28名の見学者にご参加いただき、説明会を無事開催することができました。調査区の中は足元が悪いため、目玉遺構の「井戸」しか間近でお見せできなかったのですが、そのぶん3年間の調査で出土した、バラエティ豊かな遺物の数々をじっくりご覧いただけたのではないかと思います。皆さんありがとうございました。調査はまだまだ続きますよ。



井戸の説明の様子



出土遺物の説明の様子